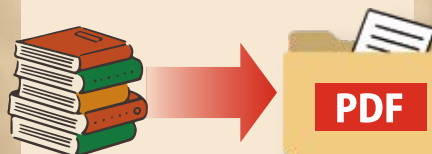


更生保護ひろしま編集委員会

広島県保護司会連合会の
ホームページリニューアル
に向けて①

追加機能！
機関紙「更生保護ひろしま」の
バックナンバーの閲覧

のため、ただいま資料の
電子データ化をしています。



記録用に製本された「更生保護ひろしま」。現存する唯一の資料で、戦後間もない頃の保護司活動等の記事や広告から、その時代背景や当時の社会など窺い知ることができます。

現在進めている、広島県保護司会連合会の新しいホームページでは、過去の機関紙「更生保護ひろしま」（昭和25年～）をウェブ上で閲覧することができるようになります。

ただいま、更生保護ひろしま編集委員会では、原本の電子データ化を行っています。戦後間もない頃から70年以上にわたる広島県における保護司活動等が記録された大変貴重な資料です。ページ数も多く、かつ古い資料のため、紙の劣化や破れ等に細心の注意を払いながらスキャンングをしています。会員の皆様に広島県の保護司の活動の歴史等を閲覧していただけるよう慎重に進めてまいります。



1950年（昭和25年）1月1日に、連絡紙「広島少年保護」（第一号）が発刊され、その2年後の昭和27年8月に、機関紙「更生保護ひろしま」が創刊されました。

更生保護ひろしま 第783号

昭和27年8月創刊 毎月1回1日発行 定価35円

編集 「更生保護ひろしま」編集委員会
発行 広島市中区上八丁堀2-31
広島県保護司会連合会
☎（082）221-4496

本誌内すべての内容の無断転載および複製を禁じます。

料金後納
郵便

更生保護

ひろしま

第三種郵便物認可
昭和33年3月30日
毎月1日発行

第783号

令和4年
3月1日発行



撮影／奥田右文（東地区保護司）
場所／広島市南区元宇品にて

目次

- 広島県保護司会連合会ホームページリニューアルと
更生保護ひろしま70周年記念誌の発刊に向けて…………… 2
- 協力雇用主さんを訪ねて（有限会社中瀬興業代表取締役 中瀬敏幸氏）…………… 4
- 「氷と声楽家との出会い」（呉地区保護司会 月原廣政 氏）…………… 6
- 更生保護ひろしま編集委員会より…………… 8



広島保護観察所

勤務時間外における緊急連絡先

夜間・休日等に事件関係等で緊急に連絡を取りたい場合は下記に御連絡願います。

・保護観察事件等 090-8990-3261
・保護司関係 090-2861-7175

更生保護ひろしま
創刊

広島県保護司会連合会 ホームページリニューアルと 更生保護ひろしま創刊 70周年記念誌の発刊に向けて

2022年に向けて（めざしてゆくこと）

機関紙『更生保護ひろしま』は2022年度に創刊70年を迎えます。
これまでの活動の歴史をかたちに残し、紡いでゆくためには、

- ① **担い手をふやす** 保護司の活動を広く世の中に知ってもらうこと
- ② **活動を深化させる** 地域を超えた、保護司相互のコミュニケーションを深める
- ③ **希望をつくる** 受け入れ先、協力企業を増やす

リニューアルの目的

目指すのは、「保護司の活動とその意義と幅広さ」を伝えること。
継続的な情報発信を行うツールが必要となります。

- ① 保護司活動の根底にある
人の関わり合いや優しさを感じさせるビジュアル
- ② 保護司の活動を分かりやすく伝える
会員以外の人にも面白い内容で、担い手に訴える
- ③ 相互コミュニケーションツールとして活用し
保護司の活動が見える化する
- ④ 積極的な発信で **社会の理解と協力企業を増やす**

新しいホームページの構成イメージ

新しいホームページ (トップページ)

広島県保護司会連合会について

- 団体概要（会長挨拶／組織図／規約／アクセス）
- 更生保護とは（保護司の目的や活動内容等）
- 関連組織団体リンク
- お問い合わせフォーム

お知らせ・トピックス

- 保護司会からのお知らせ
- ピックアップインタビュー
（保護司の紹介や協力雇用主様の紹介など）

ブログ（外部への情報発信）

会報誌閲覧（最新号やバックナンバーをPDFで）

会員専用／交流ページ

- ① **各保護区のページ（23地区）**
（地区ごとの）会員一覧や会員の自己紹介など
- ② **書き込みオンライン**
情報交換ボード（Q&A投稿型）
- ③ **ケース事例紹介（投稿型）**
- ④ **書式集**

※デザインイメージです。

ご協力をお願い
いたします。

機関紙 更生保護ひろしま 70周年記念誌の発刊に向けて

機関紙更生保護ひろしま70周年記念誌の編集にあたり、**特集記事作成のため各地区会へ原稿依頼をお願いすることとなります。**また県内会員保護司の皆様**に書面アンケートを予定しております。**ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

協力雇用主さん を訪ねて

有限会社 中瀬興業

代表取締役 中瀬敏幸氏

造船・建設業・足場組立等（呉市）



中瀬敏幸氏プロフィール

昭和24年 呉市海岸通りで出生
昭和41年 有限会社 中瀬興業入社
昭和60年 同社、代表取締役社長に就任
平成30年 呉地区協力雇用主会会長に就任

今回は、呉市焼山ひばりヶ丘にある、(有)中瀬興業 代表取締役 中瀬敏幸氏（まもなく73歳）をご訪問させていただきました。

(有)中瀬興業は、中瀬敏幸氏の父・中瀬忠芳氏が昭和25年に創立されました。事業内容は造船・建設業、足場組立等を行っています。

父・中瀬忠芳氏は、更生保護施設 呉清明園の創立時（昭和30年）から、協力企業として、非行少年や更生保護施設在所者の雇用を始めました。そして現在は長男である中瀬敏幸氏に引き継がれています。(有)中瀬興業はこれまで多くの人たちを雇用され、更生保護の道標として多大なるご尽力をいただいております。



画像は更生保護施設 呉清明園。先代である父・中瀬忠芳氏は呉清明園の創立時から協力雇用主として在所者の雇用を始めました。

とにかく辛抱強く、交流を深める

罪状には関係なく、対象者と面談して、更生意欲があれば、採用することを心掛けています。採用後は「声をかけること」「話し合うこと」を励行しています。自活について“衣食住”の整えを説き、自身のスキルの向上に努めること、自己責任の必要性について話し合いをします。積極的にコミュニケーションを重ねて信頼関係を構築することが重要と考えています。

ですが、多くの人を雇用していく中で、裏切られることも多々ありました。ですがこちらが雇用した以上、相手を信頼していることが、少しでも相手に伝わるようにと、とにかく辛抱強く対処しています。過去に無断退職や早期退職した者もありましたが、信頼して交流に努めて、雇用を継続したこともあります。一人でも多くの更生者に対して、光となれるように努力を続けていきたいと思っています。

“衣食住”の整えが必要不可欠

今後も協力雇用主企業として継続していくために、広島保護観察所、更生保護法人（ウィズ広島、呉清明園）、保護司会、更生保護女性会、関係団体、広島弁護士会、広島県就労支援事業者機構等との協力が重要です。そして、対象者には、“衣食住”の整えこそが必要不可欠であることを念頭に置き、今後も根気よく雇用を継続していくよう努めてまいります。

本日の取材について、ご多忙中にもかかわらず、江田島市の作業現場から、呉清明園まで来ていただきました。中瀬敏幸社長は、創業者である父（中瀬忠芳氏）の長年に渡る更生保護に対する理解と、支援活動等に対して、心から尊敬されており、「俺は息子として、親父の上には行けない」と語られました。昨年度は中瀬忠芳氏の三十三回忌にあたり、長年に渡る多大なるご功績に更生保護関係者として、深く感謝申し上げます。

以前私は、生まれて直ぐに養護施設に保護された少年を担当しました。16歳から20歳まで寝食をともにした少年が、困窮に陥ったとき、中瀬敏幸社長にお願いして、雇用していただきました。その後、その少年は困窮から脱するとともに、現在は起業してご活躍されています。改めて、中瀬敏幸社長に感謝を申し上げます。

また、内助の功で中瀬敏幸社長、ご子息、社員の皆さまを支えられる、ご夫人への感謝のお気持ちを話されました。中瀬敏幸社長の「亡父の遺志に従う」、そのお言葉どおり、更生保護への深いご理解とご支援に、感謝するとともに、(有)中瀬興業のますますのご発展と、社員ご一同様のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

取材後、速やかに作業現場に戻られました。今回の取材協力をいただきスタッフ一同、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。（取材／編集委員 月原廣政）



現在は、亡父の遺志を中瀬敏幸氏が引継ぎ、2代にわたり協力雇用主として更生保護活動に尽力されている。

月原さんの南極体験記

氷と声楽家との出会い

月原 廣政 氏
(呉地区保護司会)

月原氏撮影／南極海の冰山（第35次南極地域観測隊 1993.12.28）

今回は砕氷艦ふじ乗員として、南極への壮途を前に、出会った三人の声楽家についてお話しします。芳村真理さんが総合司会をされているテレビ番組に出演させていただいたことがあります。“歌手と思い出”がテーマの番組で、私は生中継の本番前、布施 明さんと話す機会がありました。

布施さんから、私たちが過酷な白き大陸へ向かうことに、「気をつけて頑張ってください」と激励していただき、私も「素晴らしい歌声をいつまでも聴かせて下さい」とお願いをしました。

本番が始まり山口百恵さんに思い出の品をお渡しする時に、百恵さんから、「これは何ですか」と問われ、「南極海で採取した動物性プランクトンのオキアミです」と説明しました。



「砕氷艦ふじ」氷上写真、加藤宗三隊員（補機長）と月原氏

百恵さんの微笑みと真摯な姿勢は、大きなファンを得ている原動力と感ずるとともに、アシスタントディレクターさんから、百恵さんは、大変、誠実なお人柄ですと賜りました。

番組収録後、芳村真理さんが、「皆さんお集まり下さい」といわれ、会場に行くと坂本 九さんがいらっしゃいました。坂本さんは私に近づき、持参していた約2万年前の南極の氷を前に、小さな声で「小さくても良いから、「ユキコ」に氷を持って帰りたい」と云われ、その時の言動は、

一人の愛する人に持参したいと云う、姿勢が強く感じられ、直ぐに、氷を半分にして梱包、「これをお持ち帰りください」と述べると、坂本さんは、子供のような笑顔で、「アリガトウゴザイマス」と謝辞を述べられ、いつも内助の功で支える最愛の人に贈りたい心境が伝わりました。

愛する人に気持ちを伝えたくも、伝えられない人は居られますが、坂本さんのお気持ちが「南極の氷」に伝わったと考えています。謙虚で、思いやりと感謝の心を持たれた声楽家であります。

坂本 九さんは、1985年8月12日に、航空機事故でご逝去されましたが、生前の最後の歌「心の瞳」の歌詞「心の瞳で 君を見つめれば 愛すること それがどんなことだか わかりかけてきた 言葉では言えない 胸の暖かさ～」と、素晴らしい歌詞を歌い上げています、坂本 九さんの人格、識見を評価、過去、現在、未来と「上を向いて歩こう」と私たちに勇気を与えてくれています。心に残る真の声楽家に「アリガトウゴザイマス」とお伝えします。

最愛の御夫人と御家族に、心からの追悼の意を表します。



坂本 九さん（画／月原廣政）

出典(画像):海上自衛隊ホームページより
(第56次～第63次南極地域観測協力)
<https://www.mod.go.jp/msdf/operation/antarctic/>



月原氏 昭和基地建設現場にて（1995.1.20撮影）

月原廣政氏 プロフィール



更生保護ひろしま 編集委員
呉地区保護司（広島県呉市川尻町出身）

昭和43年 海上自衛隊入隊
護衛艦たかつき乗艦（機関科）
第2術科学学校入校（機関科普通科）
昭和49年 砕氷艦ふじ乗艦（機関ディーゼル員）
（第16次・第17次南極観測支援参加）
平成5年 砕氷艦しらせ乗艦（機関士）
（第35次・第36次南極観測支援参加）
平成14年 海上自衛隊退職